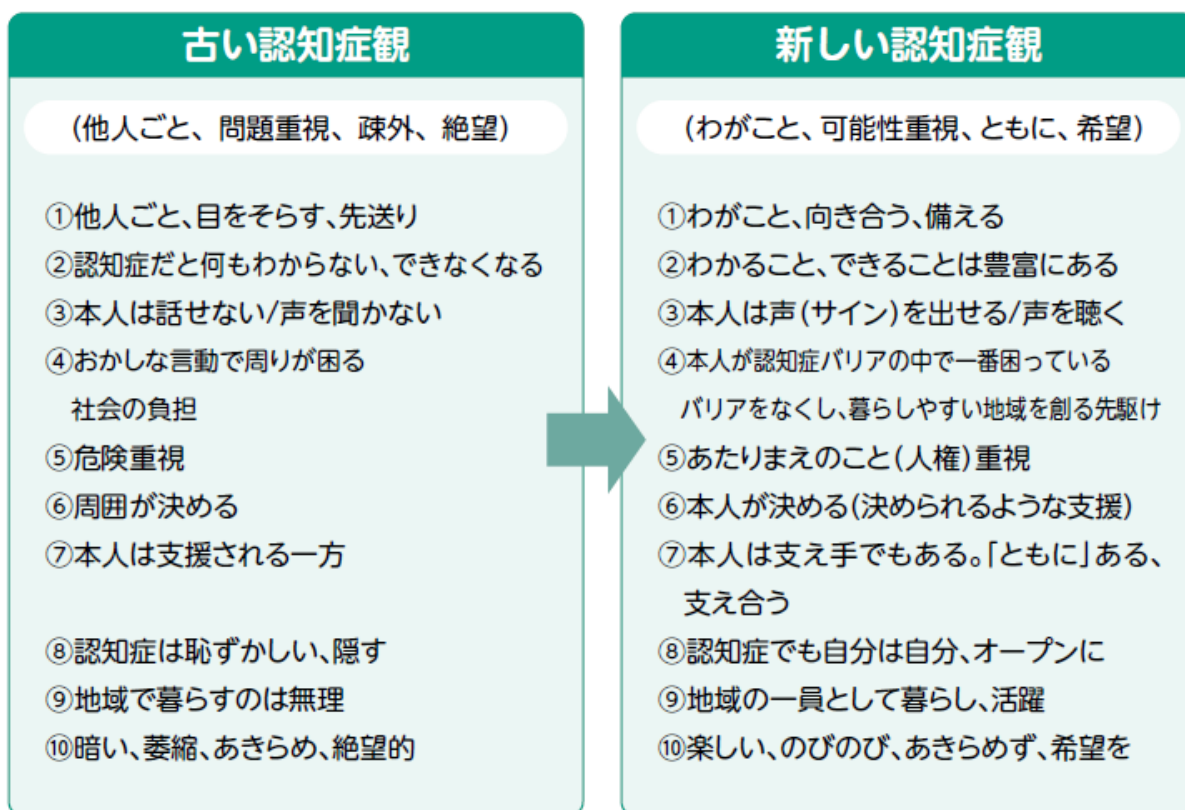


新しい認知症観への転換を図るために

1. 新しい認知症観とは

市民一人ひとりが認知症への正しい理解を深め、自分事としてとらえるとともに、「認知症になったら何もわからなくなる」という否定的なイメージから、「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という「新しい認知症観」へと転換を図るため、本市では取り組みを進めている。



出典:令和5年1月 認知症地域支援体制整備全国合同セミナー資料
(認知症介護研究・研修東京センターホームページ)をもとに作成

2. 「新しい認知症観」を広げ、転換していくための方法について

「新しい認知症観」を広げ、転換していくために有効な方法等について、委員の皆さまの日頃の活動や、専門的視点からご意見を伺いたい。